

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	グループホーム カメリア式番館
訪問調査日	平成22年11月12日
評価確定日	平成22年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館			
所在地	(233-0057) 横浜市港北区新羽町4092-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	H22年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメラア式番館は、竹林や畑などに囲まれ、自然環境に恵まれた中に立地しており、春には近隣で梅や桜が咲き季節を肌で感じる事が出来る。天気の良い日には気分転換と運動をかねて散歩に出かけ、体力低下予防を行っている。毎日の食事準備や、かたづけ、掃除等、生活に関わることすべて、入居者と一緒に行うよう取り組んでいる。個人差のある身体能力の中で一人一人の出来る事、希望を実現出来る場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じる事が出来るように力を注いでいる。また、ホームの運営については同法人のカメラア診療所の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者等と相談し合えるサポート体制がある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成22年11月12日	評価機関 評価決定日	平成22年12月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

・地下鉄新羽駅から徒歩15分の道のりで、幹線道路に沿いながらも、一段高くなった竹林と野菜畑に抱かれた静かな環境の中にグループホームカメラア式番館がある。
 ・高齢者グループホームカメラア式番館は、医療法人「寛栄会」が運営しており、老健カメラアを中心にカメラア診療所、グループホームカメラア壱番館があり、職員教育としての研修や老健施設での音楽療法、カメラアシアターでの映画鑑賞、音楽祭、更には入居者作品展、敬老祭など法人内での交流を活用できる。
 ・ホームの出入り口はバリアフリーで段差が無く、車椅子にも対応した広めの廊下、入居者が集う食堂兼居間から、両棟の間に設けられたウッドデッキに出られ、日光浴やバーベキューが楽しめるようになっており、日々の共同生活が快適に楽しめる工夫がされている。
 ・ホームは独自の理念を持ち、「入居者の意思の尊重」とし、それぞれの残存する能力にあった役割を持って、食事造りの手伝いや、清掃などが自発的に行われている。「家族や、地域との関係を大切に」では、散歩時にはこちらからの声掛け・挨拶を職員と共に行い、ホームの存在を知っていただいている。また、地域の中学生の体験入居の受け入れや、小学生の楽器演奏での来所なども受け入れている。「家庭的な温もりのある生活を実現する」の為、職員は明るく笑顔で心を通わせた支援をすることに努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目につくよう玄関に掲示されている。理念に基づき、ホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人一人の個性を大切にしたいサービスを行っている。	「一、ご入居様の意思を尊重し、充実した生活を支援します。二、家庭的なぬくもりを大切に楽しい生活空間を創ります。三、ご家族や地域の皆様とのふれあいを大切に、開かれたホームづくりに努めます。」とした忒番館独自の理念と法人の方針を掲げて、カンファレンスの場や日常的な会話の中に、話題にし全スタッフで共有認識し実践に努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど、地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い親しまれる努力を行っている。	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど、地域の催しに職員と共に積極的に参加している。日頃の散歩の時や「ごみだし」等には行き交う地域の人々にこちらから声を掛けて挨拶をして、ホームを知って貰うと共に、親しまれる努力を行っている。また、近隣の中学生の体験学習受け入れ、小学生の楽器演奏来訪などボランティア交流も行われている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に関する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中でのホームについての意見を聞きとる事のできる場であると共に、入居者の状態を理解していただけるよう努めている。	運営推進会議は忒番館と共催で実施している。地域の中でのホームについての意見を聞き取ることができる場であるとともに、ご入居されている高齢者の状態を理解して頂けるよう話すようにしている。カメラ便りなどを配布し状況をお知らせするようにしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市健康安全部よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、情報をいただいた研修には積極的に参加している。	横浜市健康安全部より諸連絡や通知、更には研修案内など情報提供を受けている。また、求められるアンケート等には回答をして協力関係が築かれている。更にその他、港北消防署新羽出張所の協力で年に2回の防災訓練を行っている。港北消防署主催の火災予防研修に参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能な限り同行している。否定をしないケアに努め、心理的拘束感を持たれないように努めている。	運営規定12条、入居契約書6条に身体拘束は行わないと謳って、拘束を行う事によるデメリットは研修等により全職員で認識している。外出願望のある入居者には、願望の根拠を生活歴などから知るようにして見守りと否定をしないケアで対応している。年間を通じて日中の玄関施錠はせず拘束の無いケアに取り組んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。疲れの見える家族とは積極的に会話を行い、病気の理解とサービスを利用する事での利点について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。ホームには安心センターを利用している方や、後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時には、重要事項説明や契約書の内容をひとつひとつ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立ての場所をホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声かけを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。	重要事項説明書9条、入居契約書9条、運営規定13条にホームの苦情等相談窓口と受け付け時間、担当者等を明示し、更に公的機関へ苦情申し立てが出来る旨と横浜市の苦情受付連絡先を記載している。その他、家族会や、運営推進会議、又日頃の面会時にも積極的に声かけを行い、入居者の状況報告に加え、話しやすい雰囲気作りに努め、意見、苦情などを直接聞くようにしている。受けた意見などは検討の上、回答と共に運営に反映するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。	管理者は定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行い職員の意見吸収に努めている。又、管理者と職員間で時には職務を離れての食事会等のインフォーマルな交流で、気軽に話し合いが行われるように心がけて、その中からの意見等も運営に反映されている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の法人内各部署代表による会議で、それぞれの部署の状況相談を表出できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人の老番館とも情報交換する事で、良いところはとりいれるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居後は個別の関わりを大切に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせには迅速に対応し、お話を傾聴している。職員の自宅訪問・本人・家族のホーム見学を通してお互いの趣旨や生活環境の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していく上でどのような支援が必要なのか、又、ご家族が何を求めているのかを考慮している。当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え必要に応じて他職種間との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩中や台所仕事などでも会話を大切にしている。家事の得意な方には教を請うようにし、教えていただいた時は感謝の意を表している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦労を配慮しながら入居者を一緒に支えていけるように日常生活の相談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、持ち込みいただき、生活空間の中に馴染みのものを取り入れている。家族や友人との面会および外出も推進している。	入居者の馴染みの人との関係で、電話の取継ぎやかつての思い出の場所、昔住んでいた家への訪問や、又あの人に逢いたい等の希望がある場合には家族の承諾や応援を得て、関係継続の支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。うまくコミュニケーションをとれない場合は職員が間に入り良い関係づくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物に一筆添えるなど、今までの関係に対して敬意を怠らないようにし、間口を広く開けた関係づくりに努めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話からくみ取る努力をしている。	意思表示の行える入居者からは日常の会話から思いを聞いて、また言葉で上手く表現が出来ない入居者からは、寄り添う事で表情や仕草から食べたい物や行きたいところなどの思いを汲み取るようにし、時には家族からも聴いて全職員で共有し、実現に向けて対応している。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで見守り入居者の1日の様子を把握するようにしている。病状の変化等による心身の変化を早期に把握するよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員から聞き取った内容をもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。	ケアプランカンファレンスでは入居者一人ひとりの介護計画の見直しを、日々の介護観察記録に照らし合わせて行い、本人がより良く暮らす為のケアについて全職員で意見を出し合い、加えて本人や家族の意見も聴いて現状に即した介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組み方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ担当や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットで衣類や食料などの買い物を本人とともにしている。又、自然環境の豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。月に1回、職員付き添いのもと、カメラア診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行ってもらっている。	入居時にかかりつけ医の確認を行って、以前からのかかりつけ医の受診を希望する方には家族の対応で継続受診して頂き、診察結果情報等は家族経由で入手し共有している。またカメラア診療所の受診希望者は月に1回、職員付き添いで、健康管理を行い、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行い、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、担当看護師により定期的に入居者の健康管理を行っている。その他、老健看護師にいつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族を通じて伝えている。又、退院が近くなった時には、家族の許可をとり病院関係者より入院中の様子や退院後の注意の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針についての説明を行っている。今年4月に、緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。	ホームでは重要事項第13条に重度化した場合、近隣医療機関と連携し可能な限りホームでの共同生活を継続できる支援をすると謳い、また、看取り介護を行う方針も持っていて入居時に説明している。管理者と職員は本人や家族の希望と医師の協力の下で繰り返し検討の上、看取り介護を行う事を共有している。本年4月に看取り介護を行っている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応についての知識を高めている。勉強会ではAED使用法や救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では入居者も参加し実際に避難を行っている。又、職員は水消火器による消火訓練も行っている。	重要事項10条に年2回昼夜を想定した避難、防災訓練を入居者も参加して行うと謳って、港北消防署新羽出張所協力の下、入居者を含めた避難訓練を実施している。又、職員は水消火器による消火訓練も行っている。ホーム内のカーテンは防災カーテンに切り替え中で、非常時の通報連絡を含めた避難誘導マニュアルに加え非常食、水も整備されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人のプライバシーに関わる声かけは、必要以上に大きな声を出さないように配慮している。記録の扱いには十分注意している。	ホーム方針に人格の尊重が謳われており、職員は入居者を人生の先輩として敬い、日々の会話時にも目線を合わせ、親しみを持った態度や、トイレ誘導時にもその人のプライドを損なう事のない様、気遣った誘導で支援が行われている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には伺いをたてる声かけを行い、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示する工夫を行っている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子からその方の好む色や組み合わせを把握し、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけには入居者と職員と一緒にやっている。献立に関わらず、好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が提供出来るよう配慮している。	食事は同法人の老健の管理栄養士の作成による栄養バランスにも考慮したメニューで、ホーム職員によって調理される。食事の盛り付け配膳、下膳など入居者の適性に合わせて職員と共にやっている。味付けその他、入居者の声のフィードバックで対応する仕組みもあり、入居者の現状にあった刻みや軟らかさなどを考慮した食事で、職員と共に談笑しつつ入居者のペースで行われていた。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり、少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りや排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。又、日中と夜間での尿とりパッドの使い分けを行っている。	排泄管理表により、入居者一人ひとりのパターンやサインを把握し、全職員で共有して、尿意の意思表示の他に時間を見計らったのさりげない支援で、オムツ類の使用は極力控え、減らすように努めている。また、夜間は個々に合わせ、パッド使用で支援を行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトの提供や起床時の冷たい牛乳の摂取など、その方にあった方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善のない方には医師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入居者が入浴を希望する時には時間に関わらず可能な限り提供している。	現在、曜日や時間の固定はせず、入居者の希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っている。入浴に際して職員は入浴に気がすすまない入居者にも、決して無理強いすることなく、時間をずらしたり、人を変えての声かけで、入居者の身体観察の効用を踏まえて入浴を促している。また季節には菖蒲湯、ゆず湯、なども採用して楽しんでもらっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。又、リビングで皆様と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択することができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。又、縫物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を任せてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族の協力をあおいでいる。	入居者の体調を加味しながら、天気のいい日には、散歩や買い物を中心にホーム近くの散歩コースやお店に出かけている。また時には車椅子対応車を利用して、外出行事として希望の場所、新吉田町の若雷神社の初詣や、春にはせせらぎ公園等に桜見物などに出かけ、希望に沿った支援を行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的に預かっている。自己管理を希望されている方には、家族と相談の上、いくらか所持しており、買い物の際には自分でレジの支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と本人の要望で、携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝入居者と一緒に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。	台所と対面式カウンターで仕切られたリビングは、南側の大きな窓からの採光良く明るい。ソファやテレビが置かれ、壁面には入居者と職員、そして訪れる家族を交えた会話の題材となる入居者の作品やスナップ写真が貼られ、テーブルには季節の花が飾られている。リビング、廊下などの共用スペースは入居者と職員が一緒に、トイレ・浴室は職員による掃除により全体によく掃除が行き届いている。また、異音や、トイレなどの異臭もなくエアコンディションも施され、居心地良く過ごせる工夫がされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じる事が出来るよう配慮している。	居室内の家財道具は使い慣れた馴染みの品々の茶箆筍、鏡台、家族写真、仏壇、縫いぐるみ等が持ち込まれて夫々の思いの設えで自分の部屋が作られている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全管理が出来るようにしてある。ADLによっては、職員が歩行の介助を行っている。		

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目につくよう玄関に掲示されている。理念に基づき、ホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人一人の個性を大切にしたいサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭りなど、地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い親しまれる努力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に関する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中でのホームについての意見を聞きとる事のできる場であると共に、入居者の状態を理解していただけるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市健康安全部よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、情報をいただいた研修には積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能な限り同行している。否定をしないケアに努め、心理的拘束感を持たれないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。疲れの見える家族とは積極的に会話を行い、病気の理解とサービスを利用する事での利点について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。ホームには安心センターを利用している方や、後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時には、重要事項説明や契約書の内容をひとつひとつ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立ての場所をホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声かけを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の法人内各部署代表による会議で、それぞれの部署の状況相談を表出できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人の老番館とも情報交換する事で、良いところはとりいれるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居後は個別の関わりを大切にした支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせには迅速に対応し、お話を傾聴している。職員の自宅訪問・本人・家族のホーム見学を通してお互いの趣旨や生活環境の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していく上でどのような支援が必要なのか、又、ご家族が何を求めているのかを考慮している。当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え必要に応じて他職種間との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩中や台所仕事などでも会話を大切にしている。家事の得意な方には教えを請うようにし、教えていただいた時は感謝の意を表している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦労を配慮しながら入居者を一緒に支えていけるように日常生活の相談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、持ち込みいただき、生活空間の中に馴染みのものを取り入れている。家族や友人との面会および外出も推進している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。うまくコミュニケーションをとれない場合は職員が間に入り良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物に一筆添えるなど、今までの関係に対して敬意を怠らないようにし、間口を広く開けた関係づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話からくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで見守り入居者の1日の様子を把握するようにしている。病状の変化等による心身の変化を早期に把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員から聞き取った内容をもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組み方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ担当や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットで衣類や食料などの買い物を本人とともにやっている。又、自然環境の豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。月に1回、職員付き添いのもと、カメラ診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、担当看護師により定期的に入居者の健康管理を行っている。その他、老健看護師にいつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族を通じて伝えている。又、退院が近くなった時には、家族の許可をとり病院関係者より入院中の様子や退院後の注意の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針についての説明を行っている。今年4月に、緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応についての知識を高めている。勉強会ではAED使用法や救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では入居者も参加し実際に避難を行っている。又、職員は水消火器による消火訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人のプライバシーに関わる声かけは、必要以上に大きな声を出さないように配慮している。記録の扱いには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には伺いをたてる声かけを行い、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示する工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子からその方の好む色や組み合わせを把握し、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけには入居者と職員と一緒にやっている。献立に関わらず、好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が提供出来るよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり、少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りや排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。又、日中と夜間での尿とりパッドの使い分けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトの提供や起床時の冷たい牛乳の摂取など、その方にあった方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善のない方には医師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入居者が入浴を希望する時には時間に関わらず可能な限り提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。又、リビングで皆様と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択することができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。又、縫物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を任せてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族の協力をあおいでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的に預かっている。自己管理を希望されている方には、家族と相談の上、いくらか所持しており、買い物の際には自分でレジの支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と本人の要望で、携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝入居者と一緒に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じる事が出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全管理が出来るようにしてある。ADLによっては、職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラア式番館

作成日

H22年11月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
	12	入居者の認知症の進行と、健康面での状態の変化が顕著に表れている。さらなる専門知識の習得と、ご入居者様一人一人の変化に対する柔軟な受け止めと認識が求められる。	職員一人一人および、家族が入居者の状況の変化を真摯に受け止め、入居者の生活に対する関わりを共有し、その方にとってのよりよい環境づくりに努める事ができる。	○フロア会議・家族会等で、認知症高齢者の変化についての知識を共有する。 ○担当者によるより深い入居者への様子観察を行い、他の職員への情報の発信や相談で意思統一を強化する。	H23年1月～ H23年4月
	13	災害時の避難訓練を年2回行っているが、半年間という間隔が職員の緊張感の後退や知識を薄れさせてしまっているように見受けられる。又、地域の方々との関係をより密にし、協力し合える体制を強化する必要がある。	職員は常に危機感を持ち、火災報知機・受信機の取り扱いや避難誘導についての知識を高める。地域の方との連携を強化する。	○年に2回の避難訓練の他、災害時について振り返る事のできる場をもつ。 ○研修室の開放など、地域の方にホームを身近に感じていただける取り組みを行う。	H23年1月～ H23年4月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。